

(研究部門)

互いのよさを認め合い、自分の思いを豊かに表現したり、鑑賞したりする児童の育成  
～造形的なよさや美しさを感じながら、主体的に鑑賞する活動を通して～

大阪市立平野小学校

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、「何事に対してもあきらめず挑戦し、豊かな人権感覚をもち、社会に貢献する子の育成」を学校教育目標に掲げ、『果敢に挑戦・人権の尊重・社会に貢献』を目指し、日々の教育活動を進めている。

そして一昨年度より、子どもたちが心豊かに主体的に生きていくため、また豊かな自己実現を図るために、感性を磨き、表現力を高めることを目指して、図画工作科を研究教科とし、研究を進めてきた。一昨年度は、用具の扱いにおける基礎的・基本的な事柄の指導法を中心に、昨年度は「互いのよさを認め合い、自分の思いを豊かに表現する児童の育成」を研究主題として研究を進めた。子どもの実態や生活体験を踏まえた興味・関心のもてる題材選びや、導入の工夫など授業改善を行ったことにより、意欲的、創造的につくったり表したりして取り組むことができたことが成果である。また、学年の発達段階に応じ、系統的に指導が進められるよう6年間を見据えた年間指導計画の作成に取り組むことができた。しかし課題として、感じたことや考えたことを話し合うことができるような鑑賞の設定について検討する必要があると考えた。

これを受け、今年度は「互いのよさを認め合い、自分の思いを豊かに表現したり鑑賞したりする児童の育成～造形的なよさや美しさを感じながら、主体的に鑑賞する活動を通して～」を研究主題として、研究を進めることにした。

## 2. 研究の趣旨

学習指導要領では、図画工作科の目標を「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す」としている。

子どもたちが自らの感性を働かせながら、作品をつくったり見たりすることは、子どもたちの欲求を満たすとともに、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさにもつながる。また、表現したことを認め合い友だちのよいところを見つけることは、仲間・集団づくりにつながる。さらに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた言語活動の充実を図るためには、児童の資質・能力の育成を重視した指導計画の工夫が必要である。

これらのことを踏まえ、本年度は次の3つを柱として設定し、研究を進めることにした。

## 3. 研究の概要

### 視点①鑑賞する活動のあり方の工夫

○子どもたちが造形的なよさや美しさなどを感じとり、認め合うための鑑賞のあり方を工夫する。

- ・表したいことや表し方などのよさや美しさについて共有・共感できる場の設定。
- ・表現の活動における鑑賞の時間の設定（タイミングや鑑賞の方法）の工夫。
- ・子どもの学びの必然性に着目した鑑賞の時間、自然と鑑賞が起こる場の設定。
- ・表現や鑑賞に多様性や発展性があり、自他のよさや可能性を発揮しやすい題材、生活や社会

の中の造形と結びつけて考えられるような題材の設定や題材開発。

#### 視点② 子どもが深く学ぶための手立て

- 子どもたちが願いや思いを意欲的に表すことができる、表現や鑑賞の手立てを工夫する。
- ・作品カードや鑑賞シートを活用した言語活動の充実。
- ・表したいことに合わせて豊かに表現できる、材料・用具・場の設定。
- ・個別最適な学びを保障するための個に応じた支援の工夫と、授業のユニバーサルデザイン化。

#### 視点③ 学習指導要領を踏まえた指導計画の作成

- 年間指導計画の作成、学年間の引継ぎや系統性を意識したカリキュラムマネジメント。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

- 子どもが表したい思いを持たせ、引き出し、イメージを広げることができるような題材を設定することで、児童は意欲的に表現や鑑賞の活動を行うことができた。
- 共有・共感できる場の設定や、材料や用具の置き場の工夫、班での製作活動などを意図的に取り入れたことで、互いのよさや面白さを認め合いながら、自然に交流や鑑賞が生まれていた。
- 交流の際に作品を全体に共有したり、製作過程を動画で確認したりするなど、ICT にしかできない効果的な使い方で活用することができ、鑑賞の必然性を生むことができた。
- 1年目の研究「用具の使い方」を活かした授業展開にしたこと、板書の工夫、材料・用具の扱いに関する掲示物を充実させたことで、表したいことに合わせて自分の思いを豊かに表現できる手立てとなった。
- 指導案検討会、研究授業・討議会を実施していく中で、JSプロジェクトの大阪教育大学附属平野小学校にもご協力いただき、指導案検討会前の先行研究会も行いながら授業実践を進めることができた。教職員の意見の交流が活発化し、主題や視点に沿って研究が深まった。

#### (2) 今後の課題

- 導入で、指導者の例示を見ることで製作意欲を引き出すことはできたが、児童の作品が例示と似てしまうという偏りが見られた。例示は見せずに、交流でイメージを膨らませることが望ましいと考える。
- ICT を活用し、製作過程の動画を視聴できたことにより、製作はスムーズにできたが、友だちと相談するなど交流する時間が減ってしまった。
- 付箋やワークシートを活用することで、自分の思いを表現する手立てとなっていたが、書くことで満足してしまい、話し合いは活発になりにくい場面があった。
- 全体交流で作品を見る場として、クイズを取り入れた場面では、意欲の高まりとしては効果的であったが、自分の願いや思いを発表できる児童の数が限られるため、ペアで活動をするなど、より多くの言葉を出し合う手立ての検討が望まれる。
- 指導者が鑑賞の観点を明確に持ち、児童の気づきを板書に構造化して整理すると、より鑑賞が深まる。
- 題材に応じた評価の仕方について研究を深める必要がある。